

広見地区 まちづくり行動計画

広見地区まちづくり協議会 令和4年4月発行

本計画は、地区の将来を見据え、各種団体間の連携のもと、地区の課題解決に向け、概ね今後5年間に効果的・効率的なまちづくり活動を地区が一丸となって計画的に実施していくための指針です。

地区の目標とする将来像

地域 コミュニティ



- 助け合い意識の向上や地域包括ケアシステムの構築により、誰もが住み良いまちとなっている。
- アクティブシニアと若い世代の協働の下で、まちづくり活動が活発に行われている。
- 地区団体と学校の交流を更に深めることにより、児童・生徒と保護者がまちづくり活動に積極的に参加している。

安全・安心



- 交通事故や犯罪が減少し、安心して暮らすことができる。
- 防災意識が地域全体に浸透し、災害への備えが万全となっている。
- 安心して子どもを産み育てることができる環境が整っている。

健康・福祉



- 心身共に健康で、明るい笑顔の住民がたくさんいる。
- 介護や福祉サービスが必要な方に確実に行き届いている。
- 高齢者等が気軽に出かけることができるシステムが構築され、広見ショッピング商店会をはじめ、地区のいろいろな場所で人々が活動している。

地区の資源

誕生



地区航空写真

- 岩盤の急傾斜地で主に茶畑が広がっていた一帯に昭和37年から40年にかけて県が住宅団地を造成したのを契機とし、昭和46年に広見小学校が開校し広見地区が誕生

まちづくりの歴史



広見夏まつり

- 昭和53年に県のコミュニティ活動推進モデル地区に指定され、昭和55年に他地区とは異なった広見地区コミュニティ推進会を設立し、平成15年度まで活動

生活環境・施設等



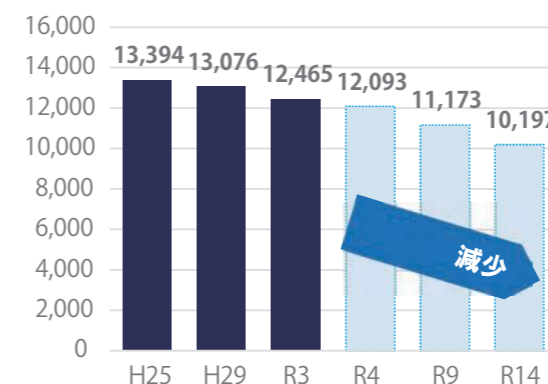
広見さくら祭り

- 公園、博物館、児童館等の公共施設が充実
- 地区内に路線バスが乗り入れている。
- 商店街、スーパーや銀行等の商業施設が充実
- 病院や高齢者向け施設等の福祉・介護施設が充実

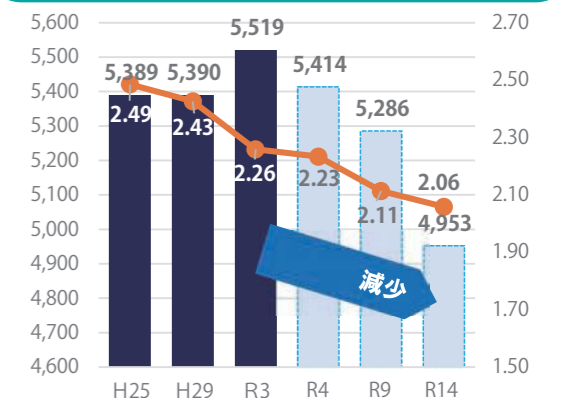
地区の現状

- 昭和46年に広見地区が誕生した。その後新たな住宅団地の造成により人口が急増したため地区を分割することとなり、平成10年4月青葉台小学校開校により4町内会が青葉台地区に移行し、現在20町内会で構成されている。しかし、若い世代の流出に伴い人口が減少し、少子高齢化が進んでいる。
- 西富士道路広見インターがあり、東名・新東名のインターが近く交通の利便性が高い。しかしながら、周辺道路は慢性的に渋滞している。
- 県営住宅や市営住宅等の集合住宅が多い。近年これらの住宅で一人暮らしの高齢者が増えている。また移動手段がない高齢者が増えている。
- 広見ショッピング商店会通りでの夏まつりと、広見公園でのさくら祭りで地区のまつりが年2回ある。しかし、日常の広見ショッピング商店会は人通りが少ない。

人口の推移



世帯数・世帯当たりの人口の推移



明るく元気で安全・安心なまちづくりを進めます。

地区の課題

地域コミュニティについて

- 体育祭や文化祭など地区行事への参加者数が減少し、住民同士のつながりが希薄になっている。
- 人口減少や少子高齢化の進行に伴い、各町内会が地区団体への役員選出に苦慮しており、地域コミュニティ機能の維持が難しくなっている。
- まちづくり協議会役員が高齢化し、また後継者の育成が進んでいないため、地区まちづくり活動の継続が難しくなっている。
- 日常の広見ショッピング商店会通りの人通りが少なく、住民同士のつながりが希薄になっている。

安全・安心について

- 交通事故や不審者情報が後を絶たず、不安を感じる時がある。
- 防災訓練がマンネリ化し、多様化する災害に対応できなくなっている。

健康・福祉について

- 一人暮らしや移動手段のない高齢者が多く、閉じこもりにより健康状態が悪化しやすく、また孤独死に陥りやすい。
- メタボリックシンドロームや糖尿病の人が多く、健康面で心配がある。

活動方針

- 地区まちづくり協議会の構成団体の中核組織として地域の牽引を担います。

- 人口減少や少子高齢社会を踏まえ各町内会が持続可能な町内会活動を行える仕組みを作ります。

地区町内会連合会

- 防災訓練の新規参加者を増やします。
- 防災教育の強化を図ります。

地区防災組織委員会

- 子どもから高齢者まで地区住民が交流を深め、地区全体の助け合いや絆を深めていくことができる事業を行います。

- まちづくり活動をはじめとした各種情報発信を行い、魅力ある広見をPRします。

総務企画委員会

- 子どもや高齢者が安心して暮らすことができる環境を作ります。
- 広見ショッピング商店会の空き店舗に地区としての常設サロンを設置します。

- 地域福祉を向上することができる事業を行います。

福祉組織委員会

- 女性の立場から住民生活並びに福祉の向上に寄与するため、各組織委員会の事業あるいは行事に参加し、必要な協力支援を行います。

女性組織委員会

- 広見ショッピング商店会の空き店舗に地区としての常設サロンを設置します。
- 地区全体の経済活動の活発化を図ります。

商工業組織委員会

- 将来にわたって持続可能な地域コミュニティを目指すため、まちづくりセンターの管理、運営を担う指定管理者制度の導入を目指します。
- 高齢者等が気軽に出かけることができるシステムの構築を図ります。

- 将来にわたって持続可能な地域コミュニティを目指すため、まちづくり協議会の人材づくりを進めます。

全体

- 地区まちづくり協議会構成団体への人的、資金面での支援
- 町内会長研修会の充実
- 2年以上の町内会長任期等の検討

- 従来の防災訓練に加え、災害図上訓練DIG等新たな訓練の実施

- 夏まつり、さくら祭り、体育祭、文化祭等の実施
- まちづくり協議会新聞の発行やウェブサイトの開設

- 北部地域包括支援センターが行う地域包括ケアシステム構築検討会への参加
- 商工業組織委員会と連携しての常設サロン設置検討会の実施
- 子どもと高齢者の見守り支援事業やふれあい訪問及びサロン交流会等の実施

- 夏まつりでの住民総踊り、さくら祭りや文化祭での模擬店、どんど焼きでの豚汁づくり等の実施
- 女性目線の防災対策研修会の実施

- 福祉組織委員会と連携しての常設サロン設置検討会の実施
- 地区限定で使用できる商品券や地域通貨導入検討会の実施

- 幅広い世代のメンバーで構成した指定管理者制度導入検討会の実施
- 高齢者等が気軽に出かけることができるシステムの実証実験の実施
- 地区の課題に対する危機感を多くの住民が共有し、当事者意識を持たせるための講演会の実施

実施事業